**歓喜院鐘楼**

歓喜院鐘楼は、庭園入口付近に建てられています。そこに納められている大きな青銅製の鐘を撞木（しゅもく）でたたくと、付近の町々にその音が響き渡ります。1日の始まりと終わりを告げるため、鐘は朝と夕に2度つきます。現代的な警報システムが開発される以前は、台風や洪水などの差し迫った災害の警告手段として、地域で重要な役割を果たしていました。除夜の鐘の大晦日には、夜中に向けて参拝者が順に鐘をつきます。傲慢・残虐・欲といった108の煩悩をとりはらうため、鐘は108回鳴らされます。除夜の鐘は日本各地の寺院で行われます。

歓喜院鐘楼は、本殿完成の翌年にあたる1761年に初めて建設されました。大正時代（1912年～1926年）には、鐘楼の位置を高くするため、石とコンクリートの基壇が追加されています。歓喜院鐘楼は登録有形文化財です。